



1 需給見通し

農林水産省は、「砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律」（昭和40年法律第109号）により、四半期ごとに砂糖および異性化糖の需給見通しを公表している。令和7年12月に公表した「令和7砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第2回）」の概要は、次の通り。

令和7砂糖年度（10月～翌9月）の見通し

【砂糖】

総消費量：178万6000トン（前年度比0.1%増）

総供給量：178万3000トン（同1.7%減）

【加糖調製品】

消費量および供給量：35万2000トン（同3.0%減）

【異性化糖】

消費量および供給量：78万トン（同1.8%増）

（1）砂糖の消費量

令和7砂糖年度（10月～翌9月）の砂糖の消費量は、178万6000トン（前年度比0.1%増）と見通している（表1）。内訳を見ると、増加の要因として引き続き好調なインバウンド需要による増加などが見込まれる一方で、減少の要因として物価高、低甘味嗜好や人口減少などの影響が想定されることが直近の消費動向を勘案し、分蜜糖の消費量は175

万トン（同0.2%増）と見通している。含蜜糖の消費量は近年の消費動向などを勘案し、3万6000トン（同7.7%減）と見通している。

（2）砂糖の供給量

令和7砂糖年度の砂糖の供給量は、178万3000トン（前年度比1.7%減）と見通している。内訳を見ると、分蜜糖の供給量は176万8000トン（同

表1 令和7砂糖年度における砂糖の需給見通し

(単位：千トン)

			令和6砂糖年度 (実績)	令和7砂糖年度				
				10月－12月 (実績見込み)	1月－3月 (見通し)	4月－6月 (見通し)	7月－9月 (見通し)	合 計
消費量	分	蜜 糖	1,747	459.7	401.9	446.4	442.0	1,750
	含	蜜 糖	39	7.6	10.5	10.0	8.1	36
	合 計		1,785	467.3	412.4	456.4	450.1	1,786
供給量	国内産糖	分蜜糖	683	324.3	267.9	37.4	－	630
		含蜜糖	11	1.1	6.7	0.7	－	8
		小 計	694	325.4	274.6	38.1	－	638
	輸 入 糖	分蜜糖	1,114	294.6	173.3	331.9	338.4	1,138
		含蜜糖	7	1.3	2.4	1.9	0.8	6
		小 計	1,120	295.9	175.7	333.8	339.2	1,145
	合 計	分蜜糖	1,797	618.9	441.2	369.3	338.4	1,768
		含蜜糖	17	2.4	9.1	2.6	0.8	15
		小 計	1,814	621.3	450.4	371.8	339.2	1,783
期末在庫			334	467.1	505.1	420.6	309.7	310

資料：農林水産省「令和7砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第2回）」
注1：分蜜糖は精糖ベースの数量、含蜜糖は製品ベースの数量である。
注2：輸入糖の分蜜糖供給量は、機構売買数量である。

1.6%減)、含蜜糖は1万5000トン(同11.8%減)と見通している。

国内産糖(分蜜糖)の供給量は、てん菜糖については、令和7年産のてん菜の作付面積は4万7965ヘクタールと見込んでおり、前年産と比較して1.8%(881ヘクタール)減少した。作柄については、4月下旬の天候不良による初期成育の遅れや、夏場の高温および一部で干ばつがあったことに加えて、9月以降も気温が高く経過したことなどから、根中糖分の低下や、1ヘクタール当たりの収量は平年よりも多かった昨年を下回ることが見込まれ、産糖量は48万7000トン(前年度比10.0%減)、供給量は48万7000トン(精製糖換算(以下同じ)。同10.0%減)と見通している。

甘しや糖については、令和7年産のサトウキビの

収穫面積は2万3307ヘクタールと見込んでおり、前年産に比べ1.1%(257ヘクタール)増加した。作柄については、6月まで少雨傾向であったことや沖縄県の一部の島において台風8号の被害の影響があったものの、平年を上回る生育が見込まれ、産糖量は15万トン(前年度比0.4%減)、供給量は14万3000トン(同0.4%減)と見通している。

（３）加糖調製品の需給

令和7砂糖年度に加糖調製品の消費量は、輸入価格の下落傾向が一服し、依然として高い水準であることから、35万2000トン(前年度比3.0%減)と見通している(表2)。また、供給量は、消費量に見合った量が供給されると見通している。

表2 令和7砂糖年度における加糖調製品の需給見通し

	令和6砂糖年度 (実績)	令和7砂糖年度				
		10月－12月 (実績見込み)	1月－3月 (見通し)	4月－6月 (見通し)	7月－9月 (見通し)	合 計
消 費 量	363	87.9	87.7	83.7	92.3	352
供 給 量	363	87.9	87.7	83.7	92.3	352

資料：農林水産省「令和7砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第2回）」
注1：改正糖価調整法（平成30年施行）に基づき調整金の対象とされた加糖調製品を対象としている。
注2：消費量は対象となる加糖調製品の輸入量（財務省貿易統計より算出）を踏まえて見通しており、供給量は消費量に見合った量が供給されるものとして見通している。
注3：令和7砂糖年度の消費量は、令和6砂糖年度の輸入実績を踏まえて見通している。

（４）異性化糖の需給

令和7砂糖年度の異性化糖の消費量は、近年の消費動向を踏まえ、78万トン(前年度比1.8%増)と

見通している(表3)。また、供給量は、消費量に見合った量が供給されると見通している。

表3 令和7砂糖年度における異性化糖の需給見通し

	令和6砂糖年度 (実績)	令和7砂糖年度				
		10月－12月 (実績見込み)	1月－3月 (見通し)	4月－6月 (見通し)	7月－9月 (見通し)	合 計
消 費 量	766	168.7	174.9	222.9	213.0	780
供 給 量	766	168.7	174.9	222.9	213.0	780

資料：農林水産省「令和7砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第2回）」
注：標準異性化糖（果糖55%ものの固形ベース）に換算した数量である。

2 輸入動向

【粗糖の輸入動向】

11月の輸入量は前年同月からかなり大きく減少

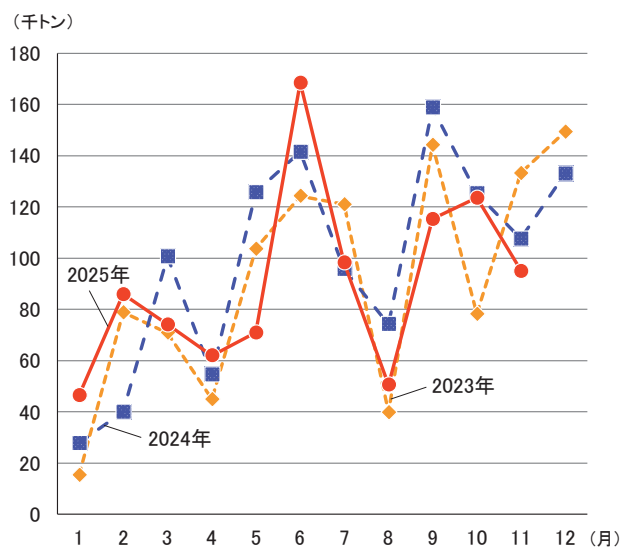
財務省「貿易統計」によると、2025年11月の甘しや糖・分蜜糖（HSコード 1701.14-110）および甘しや糖・その他（同1701.14-200の豪州、以下同じ）の輸入量は、9万4929トン（前年同月比11.8%減、前月比23.1%減）であった（図1）。

輸入先については、甘しや糖・分蜜糖は輸入実績が無く、甘しや糖・その他は豪州で、国・地域別の輸入量は次の通りであった（図2）。

豪州 9万4929トン

（前年同月比11.8%減、前月比21.5%減）

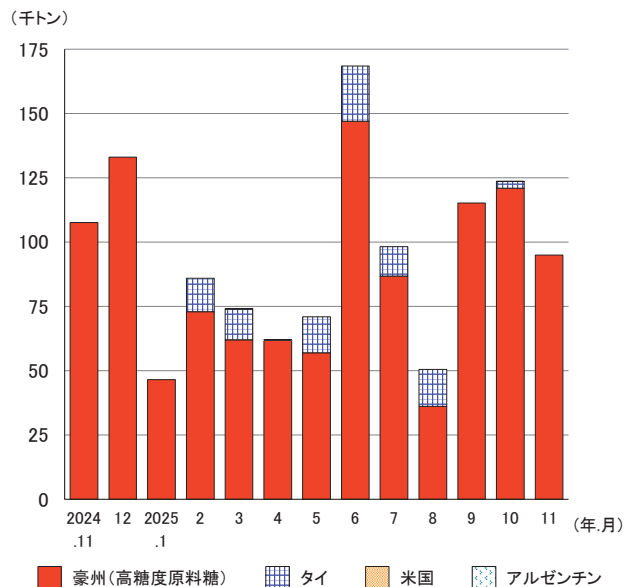
図1 粗糖の輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」

注：HSコード1701.14-110、1701.14-200（豪州のみ）

図2 粗糖の国・地域別輸入量の推移

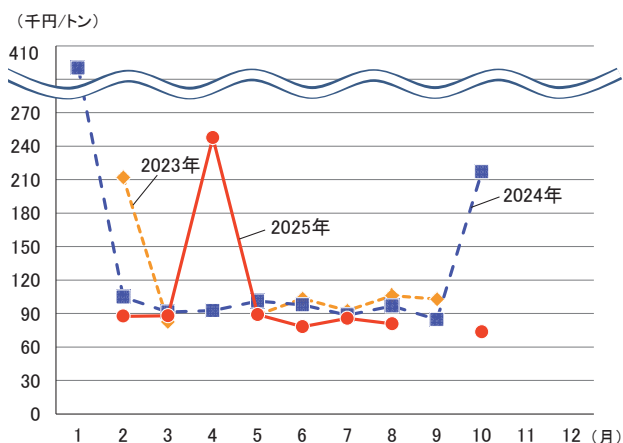


資料：財務省「貿易統計」

注：HSコード1701.14-110、1701.14-200（豪州のみ）

2025年11月における1トン当たりの輸入価格は、甘しや糖・分蜜糖は輸入実績が無く（図3）、甘しや糖・その他は、6万5603円（前年同月比26.5%安、前月比4.6%安）であった（図4）。

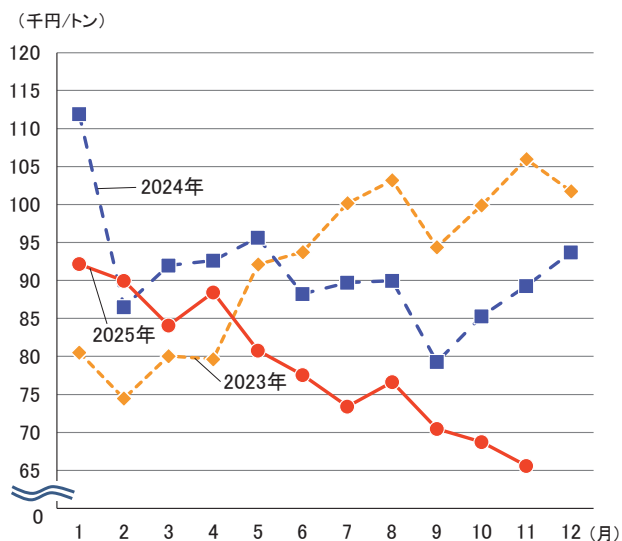
図3 粗糖（HSコード1701.14-110）の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」

注：2023年1月、4月、10月、11月、12月、2024年11月、12月、2025年1月、9月および11月は輸入実績なし。

図4 高糖度原料糖（HSコード1701.14-200の豪州）の輸入価格の推移



【含蜜糖の輸入動向】

11月の輸入量は前年同月からやや減少

財務省「貿易統計」によると、2025年11月の含蜜糖（HSコード 1701.13-000、1701.14-190）の輸入量は、611トン（前年同月比4.1%減、前月比73.1%増）であった（図5）。

輸入先は中国、ボリビア、モーリシャス、フィリピン、インドおよびペルーで、国・地域別の輸入量は次の通りであった（図6）。

中国 548トン

（前年同月比7.0%増、前月比2.0倍）

ボリビア 20トン

（同80.6%減、前月輸入実績なし）

モーリシャス 20トン

（前年同月および前月輸入実績なし）

フィリピン 12トン

（前年同月比42.9%減、前月比70.7%減）

インド 6トン

（同6.0倍、同6.0倍）

ペルー 5トン

（前年同月および前月輸入実績なし）

図5 含蜜糖の輸入量の推移

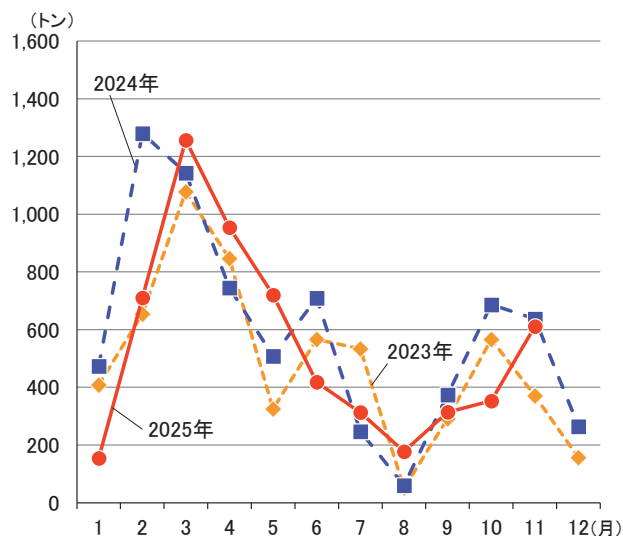
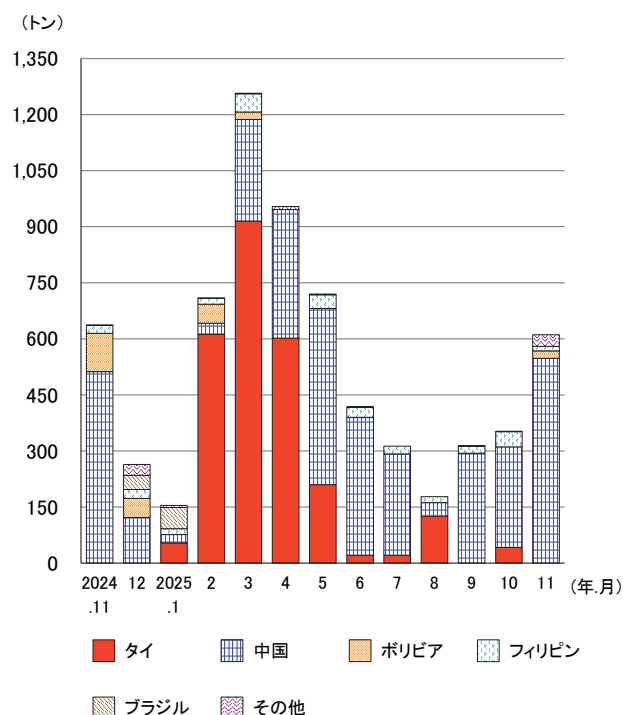


図6 含蜜糖の国・地域別輸入量の推移



2025年11月の1トン当たりの輸入価格は、18万3201円（前年同月比0.7%高、前月比0.2%安）であった（図7）。

国・地域別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

中国 17万3020円
(前年同月比1.6%安、前月比3.6%安)

ボリビア 22万7100円
(同12.3%高、前月輸入実績なし)

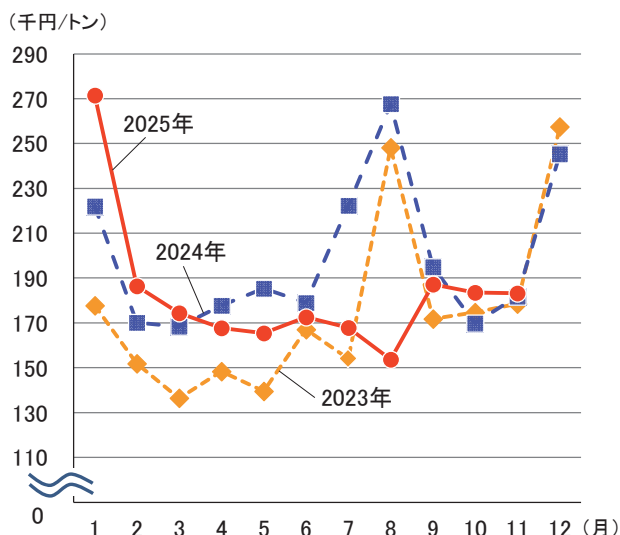
モーリシャス 17万5200円
(前年同月および前月輸入実績なし)

フィリピン 44万3250円
(前年同月比2.2倍、前月比67.5%高)

インド 35万667円
(同26.3%安、同62.3%安)

ペルー 33万400円
(前年同月および前月輸入実績なし)

図7 含蜜糖の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

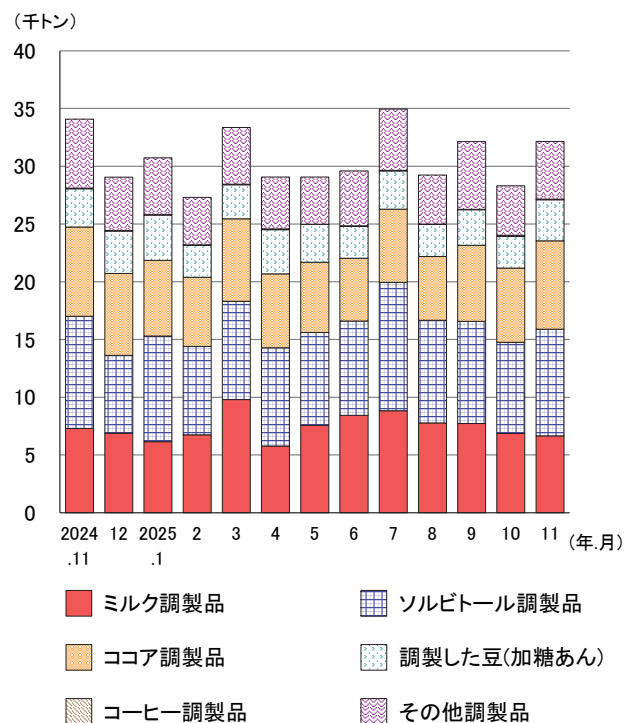
【加糖調製品の輸入動向】

11月の加糖調製品の輸入量は前年同月からやや減少

財務省「貿易統計」によると、2025年11月の加糖調製品の輸入量は、3万2151トン（前年同月比5.7%減、前月比13.6%増）であった（図8）。

品目別の輸入量は、表4の通りであった。

図8 加糖調製品の品目別輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：各品目のHSコードは、次の通り。
ココア調製品：1806.10-110、1806.10-190、1806.20-112、1806.20-113、1806.20-121、1806.20-129、1806.32-212、1806.32-213、1806.90-212、1806.90-213
コーヒー調製品：2101.11-110、2101.11-190、2101.12-111、2101.12-112、2101.12-246
調製した豆（加糖あん）：2005.40-191、2005.40-199、2005.51-191、2005.51-199
ミルク調製品：1901.90-219、2106.90-284
ソルビトール調製品：2106.90-510
その他調製品：2008.99-269、2106.90-590、2101.20-246、2106.90-252、2106.90-253、2106.90-281、2106.90-282、2106.10-219

表4 加糖調製品 品目別輸入量（11月）

(単位：トン)			
区分	輸入量	前年同月比 (増減比)	前月比 (増減比)
ミルク調製品	6,648	▲ 9.0%	▲ 3.3%
ソルビトール調製品	9,252	▲ 4.7%	17.3%
ココア調製品	7,633	▲ 1.3%	19.0%
調製した豆（加糖あん）	3,562	7.8%	29.2%
コーヒー調製品	54	26.6%	▲ 36.3%
その他調製品	5,002	▲ 16.5%	16.5%
合計	32,151	▲ 5.7%	13.6%

資料：財務省「貿易統計」
注：端数処理の関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

3 異性化糖の移出動向

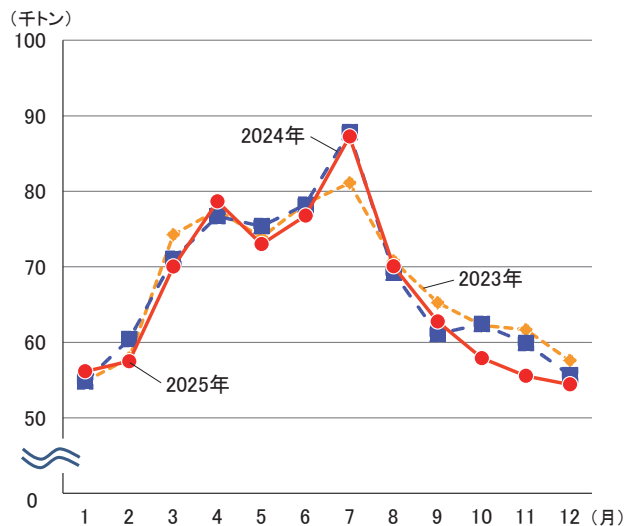
12月の移出量は前年同月からわずかに減少

2025年12月の異性化糖の移出量は、5万4405トン（前年同月比2.2%減、前月比2.1%減）であった（図9）。

同月の種類別の移出量は、次の通りであった（図10）。

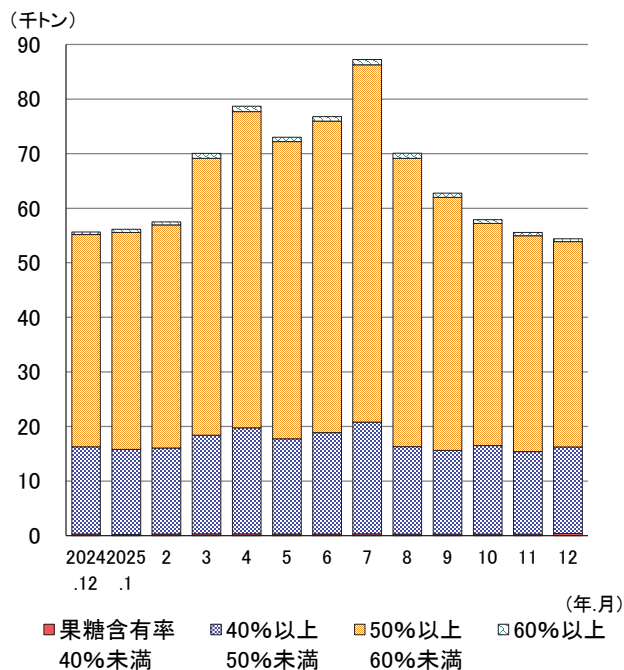
果糖含有率40%未満 367トン
（前年同月比18.0%増、前月比32.2%増）
同40%以上50%未満 1万5859トン
（同0.7%減、同4.8%増）
同50%以上60%未満 3万7641トン
（同3.2%減、同4.8%減）
同60%以上 538トン
（同11.5%増、同12.7%減）

図9 異性化糖の移出量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図10 異性化糖の種類別移出量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

4 価格動向

【市場価格】

異性化糖は前月から1円程度値下がり

12月の糖種別・地域別の砂糖価格（日経相場）は、次の通りであった。

上白糖（大袋）

東京 1キログラム当たり241～243円

大阪 同241～243円

名古屋 同244円

関門 同246円

上白糖（小袋）

東京 1キログラム当たり261～265円

大阪 同264～265円

本グラニュー糖（大袋）

東京 1キログラム当たり246～248円

大阪 同246～248円

名古屋 同249円

ビート・グラニュー糖（大袋）

東京 1キログラム当たり244～246円

大阪 同244～246円

名古屋 同245円

12月の異性化糖の価格（日経相場、大口需要家向け価格、東京、タンクローリーもの、JAS規格品、水分25%）は、次の通りであった。

果糖分42%もの

1キログラム当たり166～168円

果糖分55%もの 同172～174円

【小売価格】

12月の上白糖小袋の平均小売価格は265.1円

マーチャンドライジング・オンRDSPOS（〈全国3800店舗〉、以下同じ）によると、スーパーにおける12月の上白糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、265.1円（前年同月差0.8円安、前月差1.2円安）であった。最も高かったのは北海道で、最も安かったのは関東などであった。

同月の地域別^{（注）}の平均小売価格は、次の通りであった（表5）。

（注）地域の内訳は、次の通りである（以下同じ）。

関東など：茨城県、栃木県、群馬県、長野県、山梨県、静岡県

首都圏：東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県

中部：新潟県、富山県、石川県、福井県、岐阜県、三重県、愛知県

関西：大阪府、兵庫県、京都府、滋賀県、和歌山県、奈良県

表5 上白糖の地域別平均小売価格（12月）

（単位：円/kg）

地域	地域別 平均価格	前年同月 価格差	前月 価格差
北海道	305.4	16.7	3.6
東北	277.3	▲ 4.2	▲ 4.1
関東など	243.9	▲ 10.7	▲ 3.5
首都圏	247.8	▲ 17.8	▲ 6.3
中部	272.8	7.2	1.0
関西	257.9	5.8	0.7
中国・四国	283.2	5.4	1.7
九州・沖縄	280.4	8.5	3.0

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：マーチャンドライジング・オンRDSPOS〈全国3800店舗〉）

注1：価格は、消費税抜きの価格である。

注2：平均価格は、店舗別商品別の最高価格の単純平均である。

注3：前年同月価格差および前月価格差は、マーチャンドライジング・オンRDSPOSデータ内における価格差である。

12月のグラニュー糖小袋の平均小売価格は331.2円

スーパーにおける12月のグラニュー糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、331.2円（前年同月差8.6円高、前月差0.5円高）であった。最も高かったのは東北で、最も安かったのは関西であった。

同月の地域別の平均小売価格は、次の通りであった（表6）。

表6 グラニュー糖の地域別平均小売価格（12月）

（単位：円/kg）

地域	地域別 平均価格	前年同月 価格差	前月 価格差
北海道	326.3	10.5	4.4
東北	357.7	1.1	▲ 2.4
関東など	322.3	3.7	▲ 0.3
首都圏	328.0	7.3	0.1
中部	355.9	13.5	0.2
関西	306.7	16.0	▲ 0.2
中国・四国	331.4	7.8	1.0
九州・沖縄	334.1	6.2	0.9

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：マーチャンドライジング・オンRDSPOS〈全国3800店舗〉）

注1：価格は、消費税抜きの価格である。

注2：平均価格は、店舗別商品別の最高価格の単純平均である。

注3：前年同月価格差および前月価格差は、マーチャンドライジング・オンRDSPOSデータ内における価格差である。

12月の三温糖小袋の平均小売価格は307.5円

スーパーにおける12月の三温糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、307.5円（前年同月差2.3円高、前月差2.3円安）であった。最も高かったのは北海道で、最も安かったのは首都圏であった。

同月の地域別の平均小売価格は、次の通りであった（表7）。

表7 三温糖の地域別平均小売価格（12月）

(単位：円/kg)			
地域	地域別平均価格	前年同月価格差	前月価格差
北海道	369.2	5.0	1.7
東北	329.3	▲ 4.5	▲ 10.6
関東など	296.3	▲ 2.8	▲ 0.8
首都圏	286.4	▲ 4.7	▲ 1.4
中部	326.8	7.0	▲ 6.8
関西	295.3	13.0	▲ 0.1
中国・四国	335.1	2.4	▲ 1.1
九州・沖縄	301.5	9.8	▲ 0.7

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：マーチャンダイジング・オンRDSPOS（全国3800店舗））
注1：価格は、消費税抜きの価格である。
注2：平均価格は、店舗別商品別の最高価格の単純平均である。
注3：前年同月価格差および前月価格差は、マーチャンダイジング・オンRDSPOSデータ内における価格差である。

【支出金額および購入数量】

11月の砂糖の支出金額は前年同月からかなり大きく上昇

総務省「家計調査」によると、2025年11月における1世帯（二人以上）当たりの支出金額は97円（前年同月比11.5%高、前月比16.9%高）であった（図11）。また、同月の1世帯当たりの砂糖の購入数量は、274グラム（同0.7%減、同19.7%増）であった（図12）。

図11 1世帯当たりの砂糖に係る支出額の推移

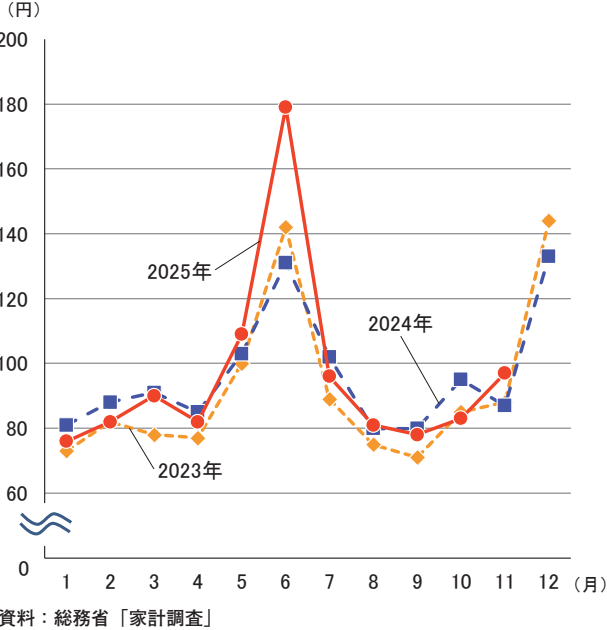


図12 1世帯当たりの砂糖の購入数量の推移

